

# へたの方から食べるとおいしい？

## 食べ方

いちごを食べる時、先から食べるか、ヘタを取って食べるか……

いちごは、先端にいくほど糖度が高いと言われている。ということは、先端から食べていくとヘタ周辺は、酸っぱく感じてしまう。ヘタを取って食べ進めれば、甘さを感じたまま食べ終わることができる。



酸っぱい

甘い



## 食べどき

“1番なり(1番最初に着いた実)”が、最もおいしいといわれている。これは、実をつけるための栄養素が集中するから。しかし、1番なりは、形がイビツになることが多く、これまで店頭には並ぶことはめずらしかった。最近は、イビツでも味は確かということで、産直で販売されるようになっている。

### 地域活動情報をお寄せください。

〒990-8570

山形市松波2-8-1

山形県農山漁村計画課  
農山漁村振興担当

norari 事務局 行

50円切手を  
お貼り下さい

お名前

ご住所 〒

お電話番号

### 読者プレゼント希望欄

プレゼント希望の場合は、「レ」を付けてください。  
応募締切は、2012年6月10日までです。

### アンケートにご協力ください

Q1 本誌の内容はいかがですか？

おもしろい  普通  つまらない

Q2 皆さんの活動や産品で本誌に掲載してみたい  
ものがありましたらご記入ください。

Q3 本誌に関するご意見をご記入ください。

## 読者プレゼント



イメージ

最上町堺田「すずの里」の「山菜詰め合わせセット」を10名様にプレゼント。ご希望の方は、左のアンケートに記入してお送りください。(官製はがき可)

当選者の発表は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

ご応募によって得られたアンケートの情報は、個人情報を含まない形での紙面への公表等に使用させていただく場合があります。

次号夏号は、7月中旬発行予定！

発行 norari編集委員会

〒990-8570 山形市松波2-8-1

山形県農山漁村計画課

「norari事務局」Tel 023-630-2416

協力 山形県農村振興技術連盟

# やまがたの食



## おとめ心

やまがた生まれの

自慢のいちご

『おとめ心(おとめこころ)』は、山形県立砂丘地農業試験場(現在の庄内産地研究室)において、研究開始から14年の歳月を経て選抜、育種され、ようやく誕生した県のオリジナル品種。

ビニールハウスの中で栽培される、赤く可憐な『おとめ心』。村山地域では、4月上旬から、庄内地域では4月中旬から収穫が始まり、6月中旬頃まで続く。

果実のツヤよし、甘味と酸味のバランスよし、と見た目も味も優れていることから、そのまま食すのはもちろん、製菓店での需要も多い。

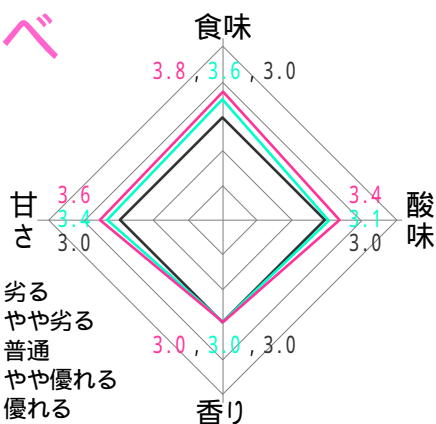


### 味くらべ

おとめ心

とちおとめ

宝交早生



(山形県調べ;宝交早生品種のアンケート評価を3.0として比較)